

平成26年度病害虫発生予察注意報第4号

平成26年7月31日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

斑点米の原因となるカメムシ類が多発している。今後、出穂期を迎える水田へカメムシ類が飛来し、イネを加害することによって斑点米の多発が懸念されるため、穂揃い期から乳熟初期のカメムシ類の防除を徹底する必要がある。

病害虫名：斑点米カメムシ類

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 やや多い

4 注意報発令の根拠

- (1) 7月29日現在、早植え、極早生品種等、すでに穂揃い期を迎えた水田における斑点米カメムシ類の発生ほ場率は92.2%、要防除水準を超えているほ場率は68.6%と高い(表1)。
- (2) 水田周辺のイネ科雑草では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが発生している。アカスジカスミカメの発生量は平年並～やや多く、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシの発生量は平年より多い。
- (3) 最重要種であるアカスジカスミカメの水田侵入世代成虫の発生盛期は、8月第2半旬頃と予測される。本時期は、主要品種であるひとめぼれ、コシヒカリの出穂期～穂揃い期とほぼ一致するため、イネ科雑草等で増殖した本種成虫の水田への多飛来が懸念される。
- (4) 気象予報によると、向こう1か月は、平年と同様に晴れの日が多く、気温も平年並又は高い確率ともに40%と予想されており、今後、出穂期を迎える水田でのカメムシ類のイネへの加害活動および増殖に好適な条件となっている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。一方、出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行っていないほ場では、穂揃い期から乳熟期に草刈りを行い、その直後に、水田に追い込まれたカメムシ類を粉剤、水和剤などで防除する。
- (2) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第抜き取る。
- (3) 薬剤防除は適期に行う。
 - ア 粉剤、水和剤などを使用する場合
薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

イ 粒剤を使用する場合

病害虫防除指針等を参考にして、各薬剤の散布適期に湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を7日間とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、水和剤などで追加防除を行う。

ウ 防除薬剤は表2を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

表1 7月下旬出穂水田における斑点米カメムシ類発生状況

調査ほ場数	平均すくい取虫数	発生ほ場率	要防除水準を超えているほ場率
51	16.3	92.2%	68.6%

注1)調査期間:7月24日～7月29日、調査ほ場の熟期:穂揃い期。

注2)すくい取り虫数は捕虫網25往復50回振り虫数を表す。

表2 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

剤型等	薬剤名
粉剤	トレボン粉剤DL、MR.ジョーカー粉剤DL スタークル粉剤DL、キラップジョーカー粉剤DL、 ダントツH粉剤DL、エルサンバッサ粉剤20DL など
粒剤	スタークル粒剤、ダントツ粒剤、キラップ粒剤 など
水和剤等	トレボン乳剤、スタークル液剤10、 ダントツフロアブル、MR.ジョーカーEW など
無人ヘリコプター防除剤	スタークル液剤10、トレボンエアー、 MR.ジョーカーEW、ダントツフロアブル など